

第三回「想いでつながる私の多発性硬化症俳句コンテスト」

受賞作品一覧

【特選】

■ご本人による作品

| | |
|--------------------|--|
| 作品 | 着膨れの街はきらめくイヤーカーフ |
| 詠み手 | 松野加奈子 |
| 作品の背景及び 受賞者コメント | 特選のご連絡を頂きありがとうございます、とても嬉しいです。 ウートフ徴候があり暑い夏は苦手です。寒い季節が好きなのでダウンコート を着て街に行き綺麗なイルミネーションを詠んだ句です。 手指が痺れピアスは無理なのでイヤーカーフを付けたりします。ペンダントの 金具を付けるのも難しいのでロングネックレスやアクセサリーを付けたりしま す。 出来る事をしながら、いつまでもお洒落を楽しみたいです。 |
| 家藤先生 選評 | 「着膨れ」は冬の季語。道行く人みな、冬物に着膨れています。周囲の街の きらめきは寒夜の灯でしょうか。きらびやかなクリスマスモードでしょうか。そ のきらめきを形作る一人として、作者の耳にはイヤーカーフが光っています。 震えやこわばり、おぼつかない手先でも身につけやすいアクセで自身を彩る 姿が、女性としての明るい矜持を感じさせます。 |

| | |
|--------------------|---|
| 作品 | 叱咤して動かす四肢よ子規忌の日 |
| 詠み手 | 俳号 はなゑ |
| 作品の背景及び 受賞者コメント | この度は「私の多発性硬化症俳句コンテスト」の特選のお知らせを頂きまし てありがとうございます。とてもうれしいです。 以前、毎日出社していた時、帰宅の時には疲れてふらふらになって歩いてい ました。最寄りの駅から自宅までは10分ほどの距離ですが、「がんばれ！あ ともう少し！家がもう見えてるよ！」など自分で自分を励ましながら足を動か していたことを思い出してこの句を作りました。正岡子規について書かれた 本を読んでいたら、子規は歩けなくなった晩年にも人力車で外出してい た、というのを読み、子規の忌日の季語を取り合わせたいと思いました。 第一回目の俳句コンテストでも特選をいただき、俳句を始めました。昨年は 秀逸をいただき、それから夏井先生のおうちde俳句くらぶに毎月応募して います。俳句が新たな趣味のひとつとなり、俳句のタネを探して毎日を過ご すのが楽しいです。この企画で俳句という新たな楽しみを知れたことにとても 感謝しています。ありがとうございます。 |
| 家藤先生 選評 | 近代俳句の基礎を築いた偉人・正岡子規の命日である九月十九日を「子規 忌」と呼びます。子規の死因は脊椎カリエスという結核菌が要因となる治療 の難しい病。晩年は身体を動かすことはほぼ不可能でした。その子規の姿 と、作者の「四肢よ」と自らの手足に励まし呼びかける姿とが重なります。残 暑厳しい九月の「日」を生きる作者自身の姿がここにあります。 |

■ご家族・ご友人・医療関係者による作品

| | |
|-----|----------------|
| 作品 | 訪リハのパタカラ軽し蝌蚪育つ |
| 詠み手 | 俳号 丹波らる（医療関係者） |

| | |
|----------------------------|--|
| 作品の背景及び 受賞者コメント | <p>この度は特選に選んで頂きまして誠にありがとうございます。訪問リハビリテーションに従事する者として毎年患者様のことを思い第1回目から投句させて頂いています。</p> <p>作品は訪問リハビリテーション中に、利用者様と口腔練習をした際に作成したものです。「パタカラ」とは「パ」と「タ」と「カ」と「ラ」を連続で発語することで会話や食事に関する口周りや舌の筋肉を鍛えることを意図しています。最初はうまく発語できなかつたり、息が続かないですが、毎日こつこつ練習することで聞き取りやすい発語ができるなどの喜びにつながります。その成長過程をすくすく育つおたまじゃくしの成長に託して詠ませていただきました。リハビリテーションを通じてすべてがうまくいくとは限りませんが、ひとつでも患者様の希望になればと思い、今後もよりよいリハビリテーションメニュー作りや俳句作りに精進したいと思います。本当にありがとうございました。</p> |
| 家藤先生 選評 | <p>訪問リハビリで行われる発語練習。「パタカラ」の四音を繰り返し発音して口や舌の筋肉を鍛えます。「蝌蚪」とはおたまじゃくしのこと。パタカラ、パタカラ、と軽やかに唱えたり、時々詰まったり。地道なリハビリの時間をすごすうちにも、田や水辺には蝌蚪が次々と生まれ、育っていきます。まるで唇から発された音が命を得て動き出したような姿で。</p> |

| | |
|----------------------------|---|
| 作品 | ひまわりや足指で押す伝の心 |
| 詠み手 | 俳号 藤井いちはつ（医療関係者） |
| 作品の背景及び 受賞者コメント | <p>人生で初めて投句しました。</p> <p>今まで俳句とは縁が遠かった私ですが、6月9日の明石の句会ライブに思い切って参加しようとしていた矢先、突然入選のメールが来て、驚き、たまげてしまいました。</p> <p>もう10年以上前のことです。私は、薬剤師として、重度の多発性硬化症の患者さん宅に薬を届けていました。夏でも首まで布団をかぶって寝ていて、ちょうど家の人が留守だった時、足指でボタンを押して、伝の心という機械でお話ししてくれたことを、今でもよく覚えています。モニター画面に文字盤があつて、それをみながら文字を選ぶのですが、一文字を打つのに15～20秒かかるのに、頑張って入力してくれて、涙が出ました。お庭には、ひまわりが咲いていました。</p> <p>これからも、俳句に挑んでいく勇気が出ました。ありがとうございます。</p> |
| 家藤先生 選評 | <p>季語と、一見関係ない言葉とをぶつけ詩の火花を生む技を取り合わせと呼びます。「ひまわり」と、足指で文字を打つ機械「伝の心」には直接の関係はありませんが、言葉同士が出会うと、様々なイメージが連鎖していきます。大輪のひまわりが咲く夏の盛り。開いた足指を湿らせる汗。意思が文字になっていく、訪問先での時間の重みに強いリアリティがあります。</p> |

【秀逸】

■ご本人による作品

| | |
|----------------------------|---|
| 作品 | 花見来て同時に芽吹くレルミット |
| 詠み手 | 俳号 まう |
| 作品の背景及び 受賞者コメント | <p>このたびは秀逸に選んで頂き大変嬉しく思います。ありがとうございます。</p> <p>MSになってもうすぐ4年になります。</p> |

| | |
|---------|--|
| | <p>今年の4月に花見に行った際、その日の気温が前日と比べて高かったためか、頸椎にある病変の影響で起きるレルミット徴候が久しぶりに強く症状が出た事を表現しました。</p> <p>私の場合寒い時期は落ち着いていますが、このように夏に向かって気温が暖かくなってくると首を動かした際に首から足元にかけて一瞬ビリビリと症状が出るので、まさに花の芽吹きの際に出現するなと思いました。</p> |
| 家藤先生 選評 | <p>桜も盛りを迎える晩春、気温は日に日に高くなっていきます。お花見に行こうと陽射しのなかを歩けば汗ばむほどの陽気です。賑わう桜が見えてくる頃、痛みやしびれとなって表れるレルミット徴候。桜の薄桃色を癒しと読むか、酷薄な色と読むか。作者の心理を慮ります。</p> |

| | |
|----------------|--|
| 作品 | 「春の海」弾けてた琴の鮮やかさ |
| 詠み手 | 俳号 凌花 |
| 作品の背景及び受賞者コメント | <p>この度、「秀逸」という賞をいただいて大変嬉しく思っています。有難うございます。</p> <p>また、この企画をしていただいたバイオジェン・ジャパン株式会社様、関係者の皆様、選考して下さった家藤先生に心から感謝しております。</p> <p>この作品の背景は、小学校の友達の叔母さんがお琴の先生だったことから、母がお琴が好きだったので、引っ込み思案だった私に習わせてくれました。</p> <p>その頃の私はMSではなかったもので、上達が早く小学6年生で宮城道雄作曲の「春の海」が弾けたのです。嬉しかったです。今回はあの大好きな美しい旋律の「春の海」と、季語の「春の海」をかけてみました。</p> <p>古びたお琴のことをお店に相談したら、持ち帰って見違えるような美しいお琴になって戻ってきました。今は鮮やかな着物のような衣を纏って2階で眠っています。</p> <p>私は手や指に力がなくて今は弾けないけれど、美しく生まれ変わったお琴を見て心が浮き立つように嬉しくなりました。</p> <p>今回はこのような作品を発表する機会を与えてくださり、感謝に堪えません。また過大なる評価をいただいて本当に有難うございました。</p> |
| 家藤先生 選評 | <p>掲句の「春の海」は宮城道雄作曲の箏曲であり、海そのものを指す季語「春の海」とは異なります。なのに、心にひっかかる。手指が記憶する弦の弾ける感覚、弾けなくとも美しく手入れされた琴。大切なものへの愛着が、春の海のように作者の心に煌めいているからです。</p> |

| | |
|----------------|--|
| 作品 | 蛞蝓をよけているのにクラクション |
| 詠み手 | 俳号 ポリエステル85% |
| 作品の背景及び受賞者コメント | <p>本コンテストに初めて応募してこのような賞をいただき、とてもうれしく思います。</p> <p>MSは外観からなかなかわかってもらえない病気なので、小さな生き物へのせつかくの気持ちをクラクションにかき消された無念さを詠みました。時々車椅子を使うことがあるのですが、その際はヘルプマークを付けている方も含めて多くの方が助けてくださるのに、と思うと残念な気になります。私自身も診断されるまで時間がかかり、その間に進行してしまった経験から、目や足の違和感から受診した方が、早くMSの診断につながることを願っています。</p> |
| 家藤先生 選評 | <p>MS当事者ならではの視点が新鮮です。雨の多い頃、多く見かける蛞蝓。うっかり踏むと杖が滑って転んでしまうんだそうです。命の危険に繋がりがかねません。そっとよけたら、途端に鳴らされるクラクション。憤懣やるかたない心と「蛞蝓」が不快にも似合う皮肉。</p> |

■ご家族・ご友人・医療関係者による作品

| | |
|----------------|---|
| 作品 | ぼろぼろのあいうえお表梅雨曇 |
| 詠み手 | 俳号 夏風かをる（家族・友人） |
| 作品の背景及び受賞者コメント | この度は秀逸に選出いただきありがとうございます。 少しずつ動けなくなって喋れなくなって母音しか発声できなくなった祖母とコミュニケーションをとるために、あいうえお表を使おうと言ったのは母でした。頭文字だけでもわかればとのことでした。コロナでなかなか会えず最後まで使うことはなかったのですが、母の車にはまだその表が残っていて、それを見ると祖母のことを思い出します。 |
| 家藤先生 選評 | 「ぼろぼろのあいうえお表」はリハビリに使うものでしょうか。「梅雨曇」の天が落とす頼りない光量の下、痛み具合が切なさを増します。言葉で映像を描写する力、その映像へちょっとだけ感情の機微を加えるさじ加減、どちらをとっても確かな技術の持ち主です。 |

| | |
|----------------|--|
| 作品 | 秋の夕書き置きに泣くまた入院 |
| 詠み手 | 俳号 如月（家族・友人） |
| 作品の背景及び受賞者コメント | この度は秀逸に選んでいただきまして、誠にありがとうございます。 私が5歳になる頃、母は多発性硬化症の診断を受けました。 末っ子で甘えんぼうの私は、父や祖父母、年の離れた兄達に支えられて育ちました。 自転車に乗って母の見舞いに行ける兄達が羨ましくて仕方ありませんでした。 長期入院を終えてからも母は入退院を繰り返していました。 母が定期通院の日は、「検査結果が悪く、お母さんが家にいなかったらどうしよう」と不安になりながら早足で帰ったものでした。 母が入院したときに、様々な病と闘う子どもたちに出会ったのが、現在の職である特別支援学校教諭を目指すきっかけでした。 目の前のおばあちゃんがかつて病床に伏せていたことなど知らない5歳の我が子が母に甘える現在です。 パワフルで笑顔が絶えない母に尊敬の念を抱いています。 多発性硬化症の当事者の方、御家族、関係する皆様の御多幸をお祈りしています。 |
| 家藤先生 選評 | 小さな詩の器に注がれた哀しみの色の濃さに胸を打たれます。個人的にはかつての記憶だと読みました。ただでさえ寂しい秋の夕暮れ。書き置きは「また入院」と告げ、不安と孤独に取り残される子どもの心はいかばかりか。字余はぐちゃぐちゃな感情の表れでもあり。 |

| | |
|----------------|---|
| 作品 | ソーダ水カランプログは小休止 |
| 詠み手 | 俳号 くう（家族・友人） |
| 作品の背景及び受賞者コメント | この度は、受賞のご連絡ありがとうございます。大変嬉しく思っております。 拙句は友人を詠んだ句です。彼女は闘病生活をブログに綴っていました。ブログは病と闘う力になっていたようです。しかし、病状の悪化があったり、ソーダ水を味わう一時にささやかな幸せがあったりして、無理に自分を奮い立たせなくてもいいのではとブログを休む決心をしました。またいつか始めるかもしれないブログは今も小休止のままですが、穏やかな日々であれば、と思っています。 |
| 家藤先生 選評 | 情報発信の身近な手段である「ブログ」。闘病生活をブログに綴る人もいれば、その記事を読み励まされる人もいるでしょう。「ソーダ水」は清涼感と同 |

時に、痺れる刺激も連想させる季語です。疲れた目と手を休ませるひとときの小休止。「カラン」の音も軽やかな一句。

■佳作

| 作品 | 詠み手 |
|---------------------------------------|-------------------|
| チャペル前吾子の花束は吾の膝に <small>フーケ</small> | 俳号 藤村一寿 [当事者] |
| 春の風両目に届く空の青 | 俳号 林理 [当事者] |
| 初めての子なしお泊まりパルス旅 | 俳号 ぱんちゃん [当事者] |
| 杖歩行いつもより増す春風か | 俳号 はくたく [当事者] |
| 体温の火を響かせる赤の音 | 俳号 らいあん [当事者] |
| 八重桜全然見えない私の目 | 志賀明子 [当事者] |
| 去年今年薬シートに書く日付け | 俳号 コミマル [当事者] |
| 主治医自慢うなずく父と歩く春 | 俳号 一柳ナヲ [当事者] |
| 薬壺抱き天の川見て祈る夜 | 俳号 勇姫 [当事者] |
| その日だけクタクタ燕ともの会 | 俳号 事務局長 [当事者] |
| 難病に負けず口笛吹く五月 | 津田基晴 [医療関係者] |
| 見えぬ痛みほほ笑みの裏夏の陽に | 俳号 炭治郎 [医療関係者] |
| うさびよんのまたの名夫花見酒 | 俳号 M.N [医療関係者] |
| 障碍といふ名の個性花衣 | 俳号 樽谷幸龍 [家族・友人] |
| 愛娘見守り九年落花かな | 俳号 ヘンリエッタ [家族・友人] |
| 病名のついた嬉しさ春の雲 | 俳号 でんでん琴女 [家族・友人] |
| 「異常なし」夫と万緑の駐車場 | 俳号 阿山きし [家族・友人] |
| 底の底より浮き上がるソーダ水 | 貴田雄介 [家族・友人] |
| 木の芽どきかくし包丁感謝して | 水戸部優子 [家族・友人] |
| 寺町に疲れて眠る秋の蝉 | 俳号 近江堇花 [その他] |